

2014

第2号

2014.6.30発行

文連おおとう

大任町文化連盟



▲ 昨年度の総合文化祭（芸能発表）の様子



▲ 町文化連盟の事例などを交えて説明する杉原会長

会報紙「文連おおとう」 第2号の発行に寄せて



大任町文化連盟
会長 杉原明光

全国的に文化団体の会員数が減少傾向にあると言われて十数年。ここ数年は「減少」というよりも「激減」という言葉が相応しいような状況となつてまいりました。その原因としてよく聞かれるのが会員の高齢化によつて、会を維持することができなくなり、解散に追い込まれるというもの。

会員の高齢化に悩むのはどの団体も同じ。いつのころからか若い世代の加入がぱったりと途絶え、気が付けば若い人がほとんどいないという状況に陥つてしまつている団体も多いのではないのでしょうか？ どの団体でも会員の掘り起しにはご尽力いただいておりますが、今はインターネットなどで全世界に向けて、簡単に自分の作品を発表することができる時代。新規会員の獲得には、なかなか苦戦を強いられているようです。

そのような逆風吹き荒れる中、数年前から活動を休止していた赤村文化連盟が復活したという話を耳にし、大変喜ばしいことであると思つておりましたところ、当の赤村文化連盟会長であります松田弘子さんからお誘いを受け、去る6月5日、研修会にお招きしていただき、意見交換をおこなつてまいりました。

赤村の会員さんたちから出てくる様々な質問に、かえつて新規会員獲得のヒントをいただいたところもあり、まだまだ工夫次第で人は集まってくる。そんな光明を見い出せた研修会となりました。